

# 小田原ざる菊 & フラワーガーデン

## & 小田原城菊花展コースの豆知識

湘南地区ネット 原

### ●小田原駅付近の「あんぱん屋さん」2店



守谷製パン店



柳屋ベーカリー

- ・長年愛される名店「守谷製パン店」 小田原市栄町 2-3-11  
小田原駅より徒歩3分、昭和レトロな雰囲気漂う40年以上続く名店です。  
長年あった場所より、少し先に移転しました。
- ・創業なんと大正10年！老舗「柳屋ベーカリー」 小田原市南町 1-3-7  
小田原城の近くにある柳屋ベーカリー。小田原駅から箱根方面にR-1号沿いに徒歩15分です。  
大正10年から続く老舗は、情緒溢れる雰囲気が目を引きまします。

### ●鈴木家のざる菊



- ・小田原市久野（くの）にある鈴木さん宅では、1株直径1メートル、2～3センチの小花によって丸い形が作られ、1株に4000個の花を付けるものもあるといひます。ざるを伏せたように丸い形から「ざる菊」といひます。11月下旬まで小さな花が黄色、白雪色、紫と変化しまします。
- ・鈴木さん宅では約13年前から自庭を無料で一般開放してひます。しかも無料で見られる、鈴木さん宅の庭に咲いてひる「ざる菊」は、その数たるやハンパではなく、噂が広がるうちに、今では遠方から観光バスでも来られます。
- ・そして以前のバス停の名前は「小田原斎場」だったのですが、ロコミやタウン情報誌で「ざる菊園」が有名になり、バス停の名前が「ざる菊園前」と変わりました。

## ●総世寺のざる菊



- ・山号 阿育王山 宗派 曹洞宗 開山 安叟宗楞 開創 嘉吉元年(1441年)  
開基 大森氏頼 本尊 釈迦牟尼 住所小田原市久野3670
- ・総世寺では、ざる菊園・鈴木三郎氏指導のもと、「ざる菊を育てる会」を設立。  
10月末～11月上旬に満開となり、色とりどりのざる菊が境内を彩ります。



樹齢約280年のカヤ



羽柴中納言秀次寄贈の銅鐘

### ○総世寺のカヤ(樺) 天然記念物(市指定 昭和49年3月30日)

- ・総世寺の山門横にまっすぐにそびえるカヤの巨木は、樹齢約280年と推定されます。  
カヤはイチイ科の常緑樹で、総世寺のカヤの木は現在、樹高約25m、幹囲5.3m。現在でも樹勢は旺盛で、大きく枝を広げています。昭和49年に小田原市の天然記念物に指定されています。また、かながわの名木100選にも選ばれています。

### ○総世寺の銅鐘 市指定文化財(県指定 平成2年2月13日)

- ・この銅鐘の由来は、1590年(天正18年)に豊臣秀吉が天下統一を果たした小田原北条氏征伐の際、総世寺に陣を構えた羽柴中納言秀次によって寄贈されたものと言われています。秀次は豊臣秀吉の姉の息子ですが、後年、出家したにも関わらず秀吉の命により、切腹させられています。

## ●小田原フラワーガーデン



一年中花とみどりが楽しめる公園



小田原市久野3798-5

- ・『花と緑の生活文化の創造』をメインテーマに「豊かなライフスタイルを築く“楽しい花園”づくり」を目指して平成7年4月にオープン、面積：4.2ヘクタール。

- ・メイン施設の「トロピカルドーム温室」では熱帯植物が、公園面積の約半分を占める「溪流の梅林」では約 200 種の「梅」が咲き誇ります。他にもアルカディア広場周囲に広がる「バラ園」や溪流沿いから池周囲に広がる「花しょうぶ」など、四季折々の花が楽しめる公園です。

## ●おだわら諏訪の原公園



ローラー滑り台



約 65.5 ヘクタール



展望広場からの眺望

- ・おだわら諏訪の原公園は、小田原市の北西部に位置する県立都市公園。県西地域の活性化を図る交流拠点として「ふるさとふれあい公園」をテーマに整備されています。
- ・設置は平成 18 年 3 月 25 日、全体計画約 65.5 ヘクタールの開園を目指して整備が進められており、現在は約 15.1 ヘクタール（2015 年 4 月 1 日時点）の区域が開園しています。里山の自然や地域文化とふれあいながら、散策やレクリエーションなどに利用していただける公園です。
- ・丹沢の山並みを背景に足柄平野が一望できる「展望広場」、県立都市公園最長 169 メートルの「ローラー滑り台」、開放感あふれる芝生の「多目的広場」、太陽光発電や屋上緑化、雨水の再利用システムを取入れた環境共生型の「パークセンター」、みかんなどを栽培する「ふるさと果樹園」などがあります。

## ●大雄山線（だいゆうざんせん） 飯田岡駅（いいだおかえき）



飯田岡駅（いいだおかえき）



大雄山線（だいゆうざんせん）

- ・大雄山線（だいゆうざんせん）は、1926（昭和元）年 5 月に開業。小田原市の小田原駅と南足柄市の大雄山駅とを結ぶ、路線距離（営業キロ）9.6 km の伊豆箱根鉄道の路線である。早朝と深夜を除き終日 12 分間隔で列車が運行されている。

- ・飯田岡駅（いいだおかえき）は、神奈川県小田原市飯田岡にある大雄山線の駅。2015 年の乗車人員は 896 人/日（降車客含まず）

## ●小田原城菊花展（11月3日～15日）



- ・ミニチュアの小田原城を小菊で飾った総合花壇、小田原清香会会員や小学生たちが丹誠込めて育てた約700鉢もの懸崖・盆栽・大輪の花を展示する、小田原の代表的な秋の風物詩です。

## ●小田原城の歴史

・小田原城の前身は、室町時代に西相模一帯を支配していた大森氏が、現在の県立小田原高等学校付近の高台（八幡山）に築いた山城でした。城の規模や築城年は明らかになっていませんが、15世紀の中頃に造られたのではないかと考えられています。

・15世紀末、伊勢宗瑞（後の北条早雲）が小田原に進出し、以後、北条氏が5代約100年にわたって関東での勢力を拡大していきました。小田原城は、関東支配の中心拠点として整備拡張され、豊臣秀吉の来攻に備え城下を囲む総延長9 kmに及ぶ総構（そうがまえ）の出現に至ってその規模は最大に達しました。しかし、天正18年（1590）、石垣山一夜城の築城をはじめとする秀吉の小田原攻めにより北条氏は滅亡し、戦国時代が終焉を迎えました。

・北条氏滅亡後、徳川家康に従って小田原攻めに参戦した大久保氏が城主となり、城は近世城郭の姿に改修されました。その後、大久保氏の改易にあたり、城は破却されましたが、稲葉氏の入城の際に再整備され、城の姿は一新されました。

貞享3年（1686）に再び大久保氏が城主となり、小田原城は東海道で箱根の関所を控えた関東地方の防御の要として幕末に至りました。

・小田原城は、明治3年（1870）に廃城となり、明治5年までに城内の多くの建物は解体されました。後に、小田原・足柄県庁・神奈川県支庁の所在地となり、さらに明治34年には、二の丸に御用邸が建てられました。しかし、大正12年（1923）9月の関東大震災により御用邸のほか石垣もほぼ全壊し、江戸時代の姿は失われてしまいました。

・その後、昭和9年（1934）に隅櫓が再建され、昭和35年（1960）5月には廃城以来90年ぶりに市民待望の天守閣が復興されました。続いて昭和46年（1971）3月に常盤木門が、平成9年10月に銅門、平成21年3月には馬出門が完成しました。

小田原城は、昭和13年（1938）8月に二の丸・三の丸の一部が、昭和34年（1959）5月に本丸と二の丸の残り全部が、国の史跡に指定されています。

— 小田原市の北部・南部の秋をお楽しみください —